



素朴な自然の中でゆったりと瞑想の姿を続けている石仏たち。ここは、やさしい羅漢のふるさと。

■周辺のご案内



- ① 古法華自然公園の石仏(重文)
- ② 住吉神社の節句祭
- ③ いこいの村はりま
- ④ 法華山一乗寺の三重塔(国宝)
- ⑤ 兵庫県立フラワーセンター



■ 拝観料200円 ■ 拝観時間 9:00~17:00 ■ 年中無休  
(20名以上の団体の場合160円)

● 兵庫県加西市五百羅漢保存委員会  
加西市北条町横尾1000 ☎(0790)42-8740

● 兵庫県加西市五百羅漢  
加西市北条町北条1293 ☎(0790)43-0580



あふれる自然の中に羅漢さんがいる

笑ったり、泣いたり、考えたり  
羅漢さんはいろんな顔で瞑想している。  
ほっ、と蝶々がとまってもおんなじ顔だ。  
ぼかぼかの太陽や、やさしい風や、  
いろんな加西の四季に  
羅漢さんはとてもよく似合っている。

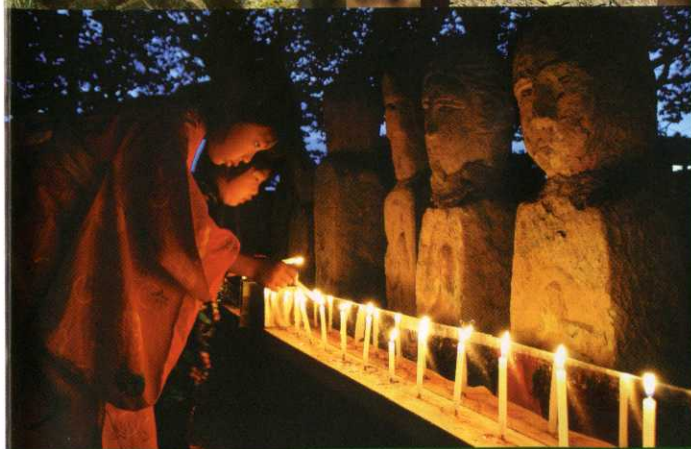






笑うがごとく、泣くがごとく  
瞑想する北条の石仏たち。

北条の五百羅漢は大分県耶馬溪山、山梨県吉沢の羅漢とともに全国的にも有名な石仏です。素朴にして表情豊かなその姿は必ず親や子に似た顔があるといわれています。郷愁と愛着を漂わせたはなはだ人間味あふれる「野の仏」として親しまれています。



毎年八月八日に行われる千灯会



茫洋とした過去の歴史のなかに深い謎を秘めてきた北条石仏群。この石仏を訪れる誰もが「いつ頃、誰が、何のために」造ったのかを知ろうとします。しかし、これに答えうる史実も資料も、たしかかな言いつたえも何一つとして存在していません。

石彫の手法としては、きわめて拙く、それゆえに、その稚拙な素朴さを愛し、何か郷愁めいたあこがれさえもって、人々はその真実を探ろうとするのですが、訴えるような眸の石仏たちは黙して何事も語ろうとはしません。

この石仏の謎は、永遠の謎であるのかも知れません。もともと、石仏を造立することは、亡き先霊を弔う純粹な信仰心の表れです。この石仏群も、何百年かの昔（慶長十五・十七年在銘の遺品数個あり）戦争か飢饉かで、無残な死を遂げた人がたくさんあり、それを当時の縁故の人、もしくは、のちの篤信の人々が、やむにやまれぬ信仰心から、それを造立して、その霊を追弔供養したものという考えは、単純すぎるでしょうか。

彫技は稚拙で永い風霜にさらされた石造遺品にすぎないとしても、石仏五百を造立するために、そこにこめられた、哀しくも美しく澄んだ信仰心、古人の純粹さを感じる。と同時に、幾百年まえ、先霊供養を志して、この造立悲願をかけた人の心に静かにこうべを垂れ、しばらくその昔に思いをめぐらしていただけだと思います。

ともあれ、色はさび、姿は風化して趣き深いこの石仏を「野趣ゆたかな野の仏」と、閑寂の昔を偲びつつ鑑賞して頂ければ幸いです。